

エダマメ・観察日誌 (かんさつにっし) ① 【3年生】

桐朋学園小学校・生活科

3年生のみなさんには、これまで『生活科だより』で「肥料(ひりょう)の話」「土作り」「エダマメの話」「芽出し(めだし)・植えかえ」について、かんたんにしょうかいしてきました。おたより、読んでくれたかな？

さて今回からは、5月も半ばをむかえ、植え付けをしたエダマメが、すくすくと成長しているようすをお伝えしたいと思います。みんなが学校に来られるようになるまで、『観察日誌』としてとどけたいと思います。

ぜひ、今回もみなさんに読んでもらい、エダマメの成長を身近にかんじてもらえるとうれしいです。

1. 芽が出たあとの「エダマメ」は…？

① 「子葉」が出てくる

→ 「双葉(ふたば)」といった方が分かりやすいかもしれませんね。種まきのあと、はじめに出てくる2まいにひらいた厚い(あつい)葉のことです。

② 「初生葉」が出てくる

→ 子葉のつぎに出てくる葉のことです。このあと生えてくるのが「本葉」ですが、「本葉」とは少し形がちがうことがあるので、このように区別(くべつ)してよばれます。

③ 「本葉」が出てくる

→ 1まいの葉が、3まいの小葉(しょうよう)でできているのです。

2. 定点観察(ていてんかんさつ)してみます

植物(しょくぶつ)などの成長や変化(へんか)をしらべるときの方法(ほうほう)の一つとして、同じものを同じ場所から観察(かんさつ)することを、「定点観察(ていてんかんさつ)・定点観測(ていてんかんそく)」などと言います。

これを行うことで、前よりも大きくなったり、数がふえたりしているなどの変化が分かりやすくなります。

写真だけだと分かりにくく、また、大きな変化はないかもしれませんが、よく見て、どんなふうに成長しているか、くらべてみてください。

4月28日(火)

「土にかえるポット」への植え付け

エダマメの種を、『土にかえるポット』に植えつけました。

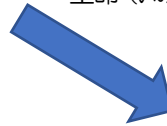
植えた後は、種が大好きな鳥から守るために、細かいあみ目でできた「寒冷紗(かんれいしゃ)」でおおい、鳥から種を守るようにしました。





5月3日(日)
ポットから「芽(め)」が出てきました

「植えつけ」から数日たち、少しずつポットから芽が出てきました。
種がふくらみ、ふくらみきった種のわれ目から、芽が顔を出したように見えます。
生命(いのち)の力強さを感じますね。



5月5日(火)
「子葉(しょう)」が生えてきました

芽が出てきたものを、畝に植えかえた矢先、「子葉」が生えてきました。
「あさがお」や「ひまわり」でも、子葉をかんさつしてきたはずですよ。



5月11日(月)
「初生葉(しゅせいよう)」が生えてきました

子葉が生えた後、「初生葉」が生えてきました。
人であれば、子葉は「こどもの歯」であり、本葉は、「おとなの歯」といえるかもしれませんね。
すくすく成長していることが分かりますね。



5月14日(木)
「本葉」が生えてくるのはいつかな?

初生葉が生えてきて数日、初生葉が大きくなっただけでなく、初生葉の間から次の芽が出てきています。きっと、数日後には本葉が顔を見せてくれることでしょう。

これからどんな成長をしていくのかな?